

## 学会企画シンポジウム7

### デジタル社会における感情の発達と教育

企画・司会：小林朋子（静岡大学）      企画・話題提供：渡辺弥生（法政大学）  
話題提供：長谷川孝治#（駒澤大学）      話題提供：小嶋秀樹#（東北大学）  
話題提供：松本有貴（徳島文理大学）      指定討論：澤海崇文（流通経済大学）

キーワード：感情，デジタル社会，教育

#### 【企画趣旨】

急速なデジタル化に伴い、子どもたちのコミュニケーションのかたちが一昔前とは大きく変化している。YouTube, LINE, Facebook, Twitter といったソーシャルメディアの利用率が高まり、以前よりは多くの人と情報をやりとりし、様々な経験を共有することが可能になっている。AI化が進み、ロボットとの共存も視野に入ってくる状況である。その一方で、近隣の親しみなれた人たちとの関わりは薄れ、対面での他人とのライブの相互作用が減少していると思われる。そのため、コミュニケーションに伴う、言葉、表情や声、仕草といった言語的・非言語的な手がかりから、他人の感情を理解したり、自分の感情をうまく表出するなどの力を学ぶ機会を逸しているようにも思われる。こうした傾向に関連してか、深刻な問題である、いじめや不登校、引きこもりなどの件数はこうしたデジタル社会になってから、ますます増加している。その背景には、対人関係の問題があるが、そこにズームすると共感性の欠如や、感情のマネジメントがうまくできない、といった点で苦しむ子どもたちが多いことに気づく。

こうした変化に対して、欧米を中心にソーシャル・エモーショナル・ラーニング (SEL) といった社会性や感情を重視した教育支援が開発されている。道徳性の発達や教育を考えていた立場もこの流れに合流している。経済協力開発機構 (OECD) などの国際機関ならびに文部科学省、内閣府など我が国の諸機関においても、これまでの学力観とは異なる社会情動的スキルや非認知能力などを含めた能力の育成を提言しつつある。このシンポジウムでは、こうしたデジタル社会で、子どもたちの感情（力）を含む社会性や道徳性は健やかに発達するのか、あるいは、こうした社会変化に伴い、それに対応した教育が必要なのか、といった課題の解決に向けて論じることを目的とする。